

競技・審判上の確認

競技委員長 嵯 峨 亘 道
審判委員長 小 澤 敦

1 競技規則について

- (1) 2022年度 公益財団法人 日本バレーボール協会6人制競技規則により実施する。ただし、ネットの高さは男子2m43cm、女子2m24cmとする。本大会はすべて3セットマッチとし、大会初日から3日目まではワンボール・システムとする。最終日はファイブボール・システムとする。
なお、大会使用球は、男子：ミカサ製カラーボール「V300W」
女子：モルテン製カラーボール「V5M5000」とする。

2 チーム構成について

- (1) チームは、監督・コーチ・マネージャー・トレーナー各1名、選手18名以内とし、試合毎に14名以内の選手をコンポジションシート（構成メンバー表）にエントリーする。なお、監督・コーチがともに外部指導者の場合は引率責任者を（校長が認める当該校の教員）届け出なければならない。
- (2) 構成メンバー14人のうち、外国人留学生は2名までとし、コートへの出場はそのうちの1名に限る。
- (3) 参加申込書に記載された監督・コーチ・マネージャーの変更がある場合、チームスタッフ変更届を11月15日（水）代表者会議の際に提出すること。なお、変更がない場合も提出してください。
- (4) 各試合のエントリーは、第1試合はプロトコール30分前、第2試合以降は、前の試合の第1セット終了までに競技本部にある各チームの構成メンバー表（COMPOSITION MEMBER）によりエントリーすること。（構成メンバー表は競技本部に用意されているためチームは持参する必要なし）。また、試合が連続する場合は、試合終了後すみやかに提出すること。コンポジションメンバー（構成メンバー）とは、各試合毎にエントリーされたメンバーである。

3 競技参加者について

- (1) 監督・コーチ・マネージャーは各1名、選手14名以内とする。監督・コーチは当該高等学校の教職員、マネージャーは当該高等学校の教職員もしくは生徒とする。ただし、監督・コーチがともに外部指導者の場合は、当該高等学校校長および高体連バレーボール専門部長の承認を得なければならない。なお、引率責任者・**トレーナー**はベンチに入ることはできない。
- (2) 監督・コーチ・マネージャーは、それぞれが左胸にマークをつけなければならない。
- (3) 監督はスコアラズテーブルに最も近い位置でチームベンチに座る。ただし、ラリー中であっても試合を妨げない、または遅延させない限り、自チームベンチ前のアタックラインの延長線から競技コントロールエリアまでのコーナーにあるウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。主審に向かって左側にベンチがある場合、ラインジャッジ（L2）の判定に影響がある場所には立たないこと。
- (4) ベンチスタッフは、ネクタイ及びジャケットを着用するか、統一された服装で襟付きのものを着用する。Tシャツ等の襟のないものや、短パン、ハーフパンツ等は原則として許可されない。マネージャーが生徒の場合は、制服または選手ウェアと同じジャージが望ましい。
- (5) 公式試合中は、監督・コーチ・マネージャー・控え選手はすべてマスクを着用すること。

4 コートワイピングについて

- (1) コート内の選手が、ラリー終了からサービス許可までの間に行う。ただし、コンポジションメンバー（構成メンバー）以外の登録されたメンバーから最大2名までクイック・モップとしてベンチの両側に配置できる。1名の場合は監督席と記録席の間に配置しワイピングを迅速に行う。服装は、試合用ユニフォーム以外の統一された服装とする。クイック・モップは、モッピングが目的なので応援等はできない。
- (2) タイムアウト中、およびセット間については、クイック・モップが行う。クイック・モップがいない場合は、競技者あるいはベンチスタッフがモップを使って行っても良い。

5 リベロ・プレーヤーについて

- (1) リベロ・プレーヤーは、チームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。
- (2) リベロ・プレーヤーは、チームの他の選手とは明らかに対照的な色のユニフォームを着用しなければならない。対照的な色でない場合は、競技委員・審判委員の判断で、ベストの着用を指示することがある。

- (3) 本大会は、アシスタント・スコアラーを補助役員生徒や参加チームが担当するので、交代する時はサイドライン上で一度、対になり立ち止まる。また、タイムアウト後は、前ラリーの状態に戻り、その後に交代する。
- (4) 正規の競技者とリベロ競技者については、以下のとおりです。
- ①登録12名の場合、リベロ競技者の人数は0名・1名・2名のいずれでも良い。
 - ②登録13名及び14名の場合、リベロ競技者の人数は2名でなければならない。

6 試合当日の練習について

- (1) 【大会初日】 試合開始前にアリーナにて、コート・ボール・ネットを使ったウォーミング・アップを30分間（ただし公式練習を含む）行う。その他の場所においてはランニング・ストレッチ等のみとし、ボールを使うことはできない。また第1試合のチームは、開会式終了後、メインアリーナの練習開始時間までの間、サブアリーナにおいて、ボールを使わないウォーミングアップを可とする。
- (2) **【大会2日目】 全てのチームがその日の初戦なので、試合開始前にアリーナにて、コート・ボール・ネットを使ったウォーミング・アップを30分間（ただし公式練習を含む）行うものとする。**
- (3) 【大会3日目】 3日目の試合はいわゆる「追い込み」で行う。第1試合のチームは、試合開始前にアリーナにて、コート・ボール・ネットを使ったウォーミング・アップを30分間（ただし公式練習を含む）行う。第2試合以降のチームはメインアリーナで行っている次の試合に出場するチームのみ、サブアリーナでボールを使った練習を行うことができる。第2試合以降は、前の試合が終了したあと、公式練習前のおよそ10分間、コート・ボール・ネットを使ったウォーミングアップを行うことができる。
- (4) 【大会4日目】 3日目同様、各試合はいわゆる「追い込み」で行う。第1試合のチームは、コート設営終了後、試合開始前にアリーナにて、コート・ボール・ネットを使ったウォーミング・アップを行う。プロトコルは8：49に行う。第2試合以降のチームはメインアリーナで行っている次の試合に出場するチームのみ、サブアリーナでボールを使った練習を行うことができる。第2試合以降は、前の試合が終了したあと、公式練習前のおよそ10～15分間、コート・ボール・ネットを使ったウォーミングアップを行うことができる。ネットの上げ下ろしがある際のコート練習の開始については、競技委員や審判委員の指示に従うこと。
- (5) 公式練習には、構成メンバー以外の登録メンバーもボールキーパー（ユニフォーム以外のものを着用する）として練習に参加することができる。 ※ボールキーパーはコート外でボールを拾うことのみが許される。
- (6) 公式練習を両チームが別々に行う場合、ネットを使用して練習しているチームの妨げにならないよう、もう一方のチームはエンドライン後方のフリーゾーンまたは自チームベンチ前にてウォームアップを行う。
- (7) 試合前の練習では、その試合にエントリーされた14名以内の選手以外は、必ずマスクを着用すること。
- (8) 前の試合の終了後は大会役員によるベンチやネットの消毒作業やコートチェック等の確認作業があるため、チームは競技委員や審判委員からの指示があるまでコートに入らないこと。

7 その他

- (1) コートオフィシャルについて
- ※コートオフィシャル：アシスタント・スコアラー2名、ラインジャッジ4名、点示2名、の計8名
 - 【大会初日～大会3日目】 第1試合は札幌市内バレーボール部員による補助役員生徒。第2試合以降は前試合の敗退チームが行う。
 - 【大会4日目】 審判委員および補助役員生徒が行う。
- ※なお、初日から3日目の第2試合以降についても大会審判委員や補助役員生徒がコートオフィシャルを行う場合がある。
- (2) 会場への入場について
- 今大会はチームおよび観客の入場を可とする。チームについては別紙大会参加ガイドラインに従うこと。観客として入館される方についても、一日ごとに健康チェックシートを提出すること。
- (3) 観戦について
- ①指定観戦エリアでの観戦は、試合を行っている当該チームのみ許される。
 - ②観戦をしながら、声を出して応援することはできない。また、スティックバルーンやメガホンは持込不可とする。
 - ③部旗・のぼりについては認めるが、試合の当該チームを優先とする。
- (4) 開会式で使用したチームプラカードは、試合の際にベンチ最後尾のプラカード立てに立てるものとする。